

申年に思う

元日の朝、NHKラジオを聞いていた。

新年に関するトークに、霊長類学者（だったと思う）が出演していた。

話を記録していたわけでないため、正確性は欠くが、鮮明に記憶に残っていることがある。

それは、ヒトは、いわゆるサルのなかまの中でも特徴的な存在であることだ。

まず、サルは群れの生き物、ゴリラは家族、ヒトはどちらにも属するということだ。

我々ヒトは、家族という狭い集団、会社という比較的大きな集団（群れ）、地域など社会という大きな集団に属している。従って、家族の嶋さん、会社の嶋さん、社会の嶋さんに対して話し方や伝え方が異なり、対象のちがいに對し、コミュニケーションの取り方を巧みに変える技を身につけ、駆使している。ゴリラは、属する世界が一つなので、話し方は一通りでいいらしい。ヒトが、会社の部下へ命令調に話すのと同様に、家庭で家族に話したらどうなるか、容易に予想できるだろう。

では、ヒトも家庭を持たず、地域とも接触を持たず、会社にだけ属していたらいいのではないか。いちいち話し方やコミュニケーションの仕方を変える必要がなく楽ではないか。一部では、このような状況に近い生活が実際に行われているのかもしれない。

しかし、その霊長類学者が言うには、このような生き方をすると、ヒトは「つらく」なるようだ。この複雑なバランスあるコミュニケーションすることでヒトが成り立ち進化するようだ。逆に言うと、ヒトのこの巧みなコミュニケーションがあるから人間の社会が成り立っているという説もあるといていた。（ここは、記憶が曖昧なのでこのようなことを話していたと理解していただきたい。）

さて、このホームページの目的である教育に舵を戻そう。

近年、教育界では二極化があるように感じている。

一つは個別化である。学力や興味が類似している集団に分け、それに応じた指導を行うことである。従来からの普通校・実業校、文系・理系から、最近の習熟度別学級などがあげられる。もう一つは、ちがいをあえて含めた集団での指導である。子供どうして教えあう教育やインクルシブ教育などがあげられる。

どちらがいいかという議論がある。どちらもよい。様々な集団に属することで多様なコミュニケーションを体験することができる。それで、ヒトとして成長できると考える。

子供たちでいうと、学校という集団でのコミュニケーション、学校外の遊びの異年齢の集団でのコミュニケーション、そして家庭におけるコミュニケーション等の体験が必要である。また、我々大人でいうと、会社でのコミュニケーション、家族とのコミュニケーション、飲み屋や趣味、地域でのコミュニケーションなどをバランスよく経験することが望ましい。

でも、改めて考えてみよう。このことは新しいことだろうか。従来からのコミュニケーションそのものであるし、同種の話題は従来からあった。

今、社会が複雑で難しくなっているのかもしれない。しかし、何か迷ってしまったら、原点に戻り、我々はヒトという動物であることを思い出すといいのではなからうか。12年ぶりに、十二支の中で我々ヒトに一番近いサルの順番が来た。新年にあたり考えたことを書いた。